

令和8年 上半期
火災・救急・救助統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別の件数	4
8	地区別件数の推移	5
9	住宅用火災警報器の奏功事例	6
第2	救急の概況	7
1	救急出動件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10
第3	救助の概況	11
1	救助出動等の状況	11
2	発生場所別の出動状況	12
3	地区別救助出動状況	13

火

災

第1 火災の概況

令和8年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数71件、損害額8,803万7千円、死者8人、負傷者9人です。

1 火災件数

令和8年上半期（1月～6月）の火災件数は71件で、前年同期（76件）と比べ5件減っています。

（▲は減少）

		令和8年	令和7年	前年同期比
火災件数		71	76	▲5
種別	建物火災 (住宅火災)	49 (31)	58 (35)	▲9 ▲(4)
	林野火災	2	0	2
	車両火災	2	2	0
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	18	16	2

※その他の火災は、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件などが燃えた火災です。

2 火災による損害

令和8年上半期（1月～6月）の火災での損害状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		令和8年	令和7年	前年同期比
焼損棟数	合計	62	72	▲10
	全焼	5	6	▲1
	半焼	4	6	▲2
	部分焼	13	14	▲1
	ぼや	40	46	▲6
り災世帯数		41	52	▲11
建物焼損床面積（㎡）		1,375	688	687
建物焼損表面積（㎡）		82	58	24
林野焼損面積（a）		31	0	31
損害額（千円）		88,037	49,855	38,182

3 死傷者数

令和8年上半期（1月～6月）の火災での死者は8人で、前年同期（2人）と比べ6人増えています。また、火災での負傷者は9人で、前年同期（17人）と比べ8人減っています。

（▲は減少）

	令和8年	令和7年	前年同期比
死者	8	2	6
負傷者	9	17	▲8

4 出火原因別の火災発生状況

令和8年上半期(1月～6月)の火災71件は出火原因別で、「こんろ」が8件(11.3%)、「たばこ」が9件(12.7%)、「電気機器」が7件(9.9%)です。

(▲は減少)

	令和8年	令和7年	前年同期比
たばこ	9	13	▲ 4
こんろ	8	14	▲ 6
電気機器	7	3	4
たき火	6	9	▲ 3
ストーブ	5	6	▲ 1
放火	3	2	1
配線器具	3	2	1
火あそび	3	0	3
電灯・電話等の配線	1	5	▲ 4
灯火	1	3	▲ 2
火入れ	1	2	▲ 1
放火の疑い	1	1	0
電気装置	1	0	1
煙突・煙道	1	0	1
溶接機・切断機	0	2	▲ 2
排気管	0	1	▲ 1
焼却炉	0	1	▲ 1
マッチ・ライター	0	1	▲ 1
内燃機関	0	1	▲ 1
こたつ	0	1	▲ 1
その他	13	8	5
不明・調査中	8	1	7
合計	71	76	▲ 5

5 損害額

令和8年上半期（1月～6月）の火災での損害額は8,803万7千円で、前年同期（4,985万5千円）と比べ3,818万2千円増えています。

（▲は減少）

	令和8年 (千円)	令和7年 (千円)	前年同期比 (千円)
損 害 額	88,037	49,855	38,182
建 物	85,734	47,444	38,290
林 野	0	0	0
車 両	732	1,669	▲ 937
船 舶	0	0	0
航 空 機	0	0	0
そ の 他	1,571	742	829
爆 発	0	0	0

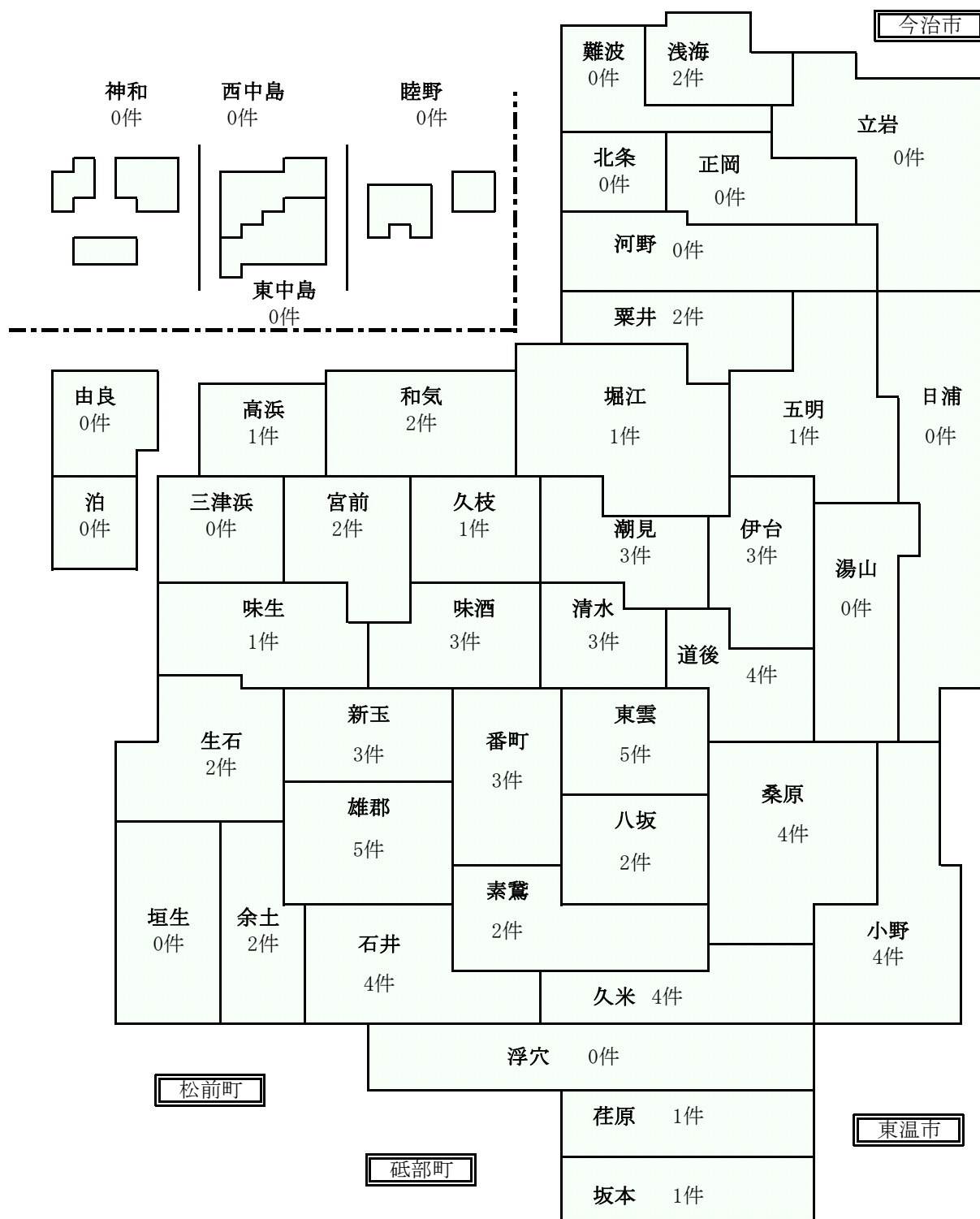
6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）の火災状況は次表のとおりです。

	令和8年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	平均
火災件数 (件)	71	76	52	63	76	67.6
焼損棟数 (棟)	62	72	50	49	82	63.0
死者 (人)	8	2	0	4	5	3.8
負傷者 (人)	9	17	12	8	14	12.0
り災世帯数 (世帯)	41	52	39	31	63	45.2
り災人員 (人)	88	103	80	73	128	94.4
損害額 (千円)	88,037	49,855	54,523	13,295	92,282	59,598

7 地区別の件数

火災件数は地区別で、東雲と雄郡が5件、桑原、道後、久米、小野、石井が4件の順です。



8 地区別件数の推移

(各年上半期)

	令和8年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年
番町	3	4	2	3	6
東雲	5	1	2	4	3
八坂	2	4	1	2	0
素鷲	2	3	2	0	1
雄郡	5	3	2	2	3
新玉	3	0	3	1	1
味酒	3	2	2	1	1
清水	3	2	2	5	7
桑原	4	4	4	2	1
道後	4	4	2	3	3
味生	1	2	1	6	1
生石	2	7	2	5	4
垣生	0	1	0	0	1
宮前	2	1	3	3	2
三津浜	0	1	1	0	0
高浜	1	0	1	1	1
久枝	1	2	0	3	1
潮見	3	1	1	2	2
和気	2	2	3	0	2
堀江	1	3	0	1	2
余土	2	2	1	3	2
由良	0	0	0	0	0
泊	0	0	0	0	0
久米	4	5	3	2	3
湯山	0	1	0	2	0
日浦	0	1	1	1	0
伊台	3	2	1	0	1
五明	1	0	0	0	1
小野	4	3	0	3	3
浮穴	0	3	1	1	1
石井	4	5	4	3	8
荅原	1	3	4	1	2
坂本	1	0	0	0	1
浅海	2	1	1	0	1
立岩	0	0	0	0	1
難波	0	0	1	0	1
正岡	0	0	0	0	1
北条	0	0	0	0	1
河野	0	1	0	2	3
栗井	2	1	0	1	2
睦野	0	0	1	0	0
東中島	0	1	0	0	0
西中島	0	0	0	0	1
神和	0	0	0	0	1
合計	71	76	52	63	76

※松山市基準地区（44地区）

9 住宅用火災警報器の奏功事例

【事例1】近隣住民が警報音に気づき、被害を最小限に抑えた事例

近隣住民が住宅から警報音が鳴っているのに気づき、119番通報した。
炎は自然に消えていたが、火災の早期発見に生かされた。

【事例2】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例①

住人が警報音が鳴っているのに気づき、台所を確認し、電子レンジから煙が出ているのを発見。早期の119番通報で火災を未然に防げた。

【事例3】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例②

住人が警報音が鳴っているのに気づき、台所を確認し、ガスこんろの火にかけたままの鍋から煙が出ているのを発見。ガスこんろの火を止め、火災を未然に防げた。

- 住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。適切な設置と維持管理を行いましょう。
- 住宅用火災警報器は、古くなると電池切れや、故障する可能性があります。日頃から正常に作動するか確認し、10年を目安に交換しましょう。
- 作動確認や設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」を確認ください。
- 日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

救 急

第2 救急の概況

松山市の令和8年上半期（1～6月）の救急出動件数は14,450件、搬送人員は13,268人で、前年同期と比べ出動件数と搬送人員とも減っています。

1日平均約79.8件、約18分22秒に1回の割合で救急車が出動し、市民約37.1人に1人の割合で搬送されています。

1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別は、急病、一般負傷、転院搬送、交通事故の順で、この4種別で出動件数と搬送人員とも全体の約96～98%を占めています。

（▲は減少）

区分	単位	令和8年	構成比(%)	令和7年	構成比(%)	増減
出動件数	件	14,450	100.0	15,201	100.0	▲ 751
内訳	火災	53	0.4	50	0.3	3
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	11	0.1	4	0.0	7
	交通	1,013	7.0	1,036	6.8	▲ 23
	労災	73	0.5	95	0.6	▲ 22
	運動	101	0.7	79	0.5	22
	一般	2,207	15.3	2,192	14.4	15
	加害	43	0.3	58	0.4	▲ 15
	自損	145	1.0	109	0.7	36
	急病	9,008	62.3	9,627	63.3	▲ 619
	転院	1,667	11.5	1,811	11.9	▲ 144
	その他	129	0.9	140	0.9	▲ 11
搬送件数	件	13,210	—	13,915	—	▲ 705
搬送人員	人	13,268	100.0	13,975	100.0	▲ 707
内訳	火災	10	0.1	13	0.1	▲ 3
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	3	0.0	2	0.0	1
	交通	940	7.1	952	6.8	▲ 12
	労災	73	0.6	96	0.7	▲ 23
	運動	103	0.8	78	0.6	25
	一般	2,074	15.6	2,071	14.8	3
	加害	36	0.3	46	0.3	▲ 10
	自損	108	0.8	90	0.6	18
	急病	8,264	62.3	8,825	63.1	▲ 561
	転院	1,657	12.5	1,802	12.9	▲ 145
	その他	0	0.0	0	0.0	0
出動平均(1日)	件	79.8		84.0		
出動間隔		18分22秒		17分9秒		

（注1）出動平均は、前年比1日あたり4.2件減っています。

（注2）出動間隔は、前年比73秒長くなっています。

（注3）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関12,202人(92.0%)、その他の医療機関1,066人(8.0%)、その他の場所0人です。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	7,610	907	2,001	1,684	12,202
その他の医療機関	655	33	72	306	1,066
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	8,265	940	2,073	1,990	13,268

(注) 救急医療機関は、厚生省令で救急告示を受けている医療機関

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別は、死亡137人(1.0%)、重症388人(2.9%)、中等症5,094人(38.4%)、軽症7,649人(57.6%)で、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	2	0	1	1	0	0	10	0	12	111	0	137
重症	2	0	1	21	2	0	29	1	8	289	35	388
中等症	1	0	0	112	18	18	622	4	26	2,685	1,608	5,094
軽症	5	0	1	806	53	85	1,413	31	62	5,179	14	7,649
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	0	3	940	73	103	2,074	36	108	8,264	1,657	13,268

(傷病程度)

死亡 初診時に、死亡が確認されたもの

重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療が必要なもの

中等症 傷病の程度が入院を必要とし重症に至らないもの

軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 搬送したが医師の診断がないものと「その他の場所」へ搬送したもの

4 応急処置実施状況

救急救命士などが行った救命処置は、264件です。

事故種別 応急処置	事故種別 応急処置対象人数	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
		8,265	940	2,073	1,990	13,268
止血		17	25	125	27	194
被覆		42	252	496	56	846
固定		11	117	122	51	301
保温		144	5	34	44	227
酸素吸入		1,342	12	72	472	1,898
人工呼吸のみ実施		8	0	0	1	9
胸骨圧迫のみ実施		5	1	0	0	6
● うち自動心臓マッサージ器使用		1	0	0	0	1
心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）		204	3	19	27	253
● うち自動心臓マッサージ器使用		86	1	6	6	99
気道確保		252	4	21	24	301
● うち経鼻エアウェイ		3	0	0	0	3
● うち喉頭鏡・鉗子等		6	0	12	1	19
●◎ うちラリングアルマスク等		72	2	3	7	84
●◎ 気管挿管		2	0	3	1	6
● 在宅療法継続		24	3	1	2	30
● ショックパンツ		0	0	0	0	0
●◎ 除細動		21	0	1	2	24
●◎ 静脈路確保		65	2	5	5	77
うち心肺停止前（ブドウ糖含む）		9	2	1	0	12
うち心肺停止後		56	0	4	5	65
●◎ 薬剤投与		12	0	1	2	15
アドレナリン投与		8	0	1	2	11
エピペン投与		0	0	0	0	0
ブドウ糖投与		4	0	0	0	4
●◎ 血糖測定		58	0	0	0	58
● 血圧測定		7,820	931	1,958	1,858	12,567
● 聴診器		987	28	100	98	1,213
● 血中酸素飽和度の測定		8,041	931	2,028	1,916	12,916
● 心電図		2,415	33	73	249	2,770
その他		179	14	48	66	307
合計		21,647	2,361	5,104	4,900	34,012
● 拡大された応急処置等		19,613	1,931	4,191	4,147	29,882
◎ 特定行為等		230	4	13	17	264

（注）

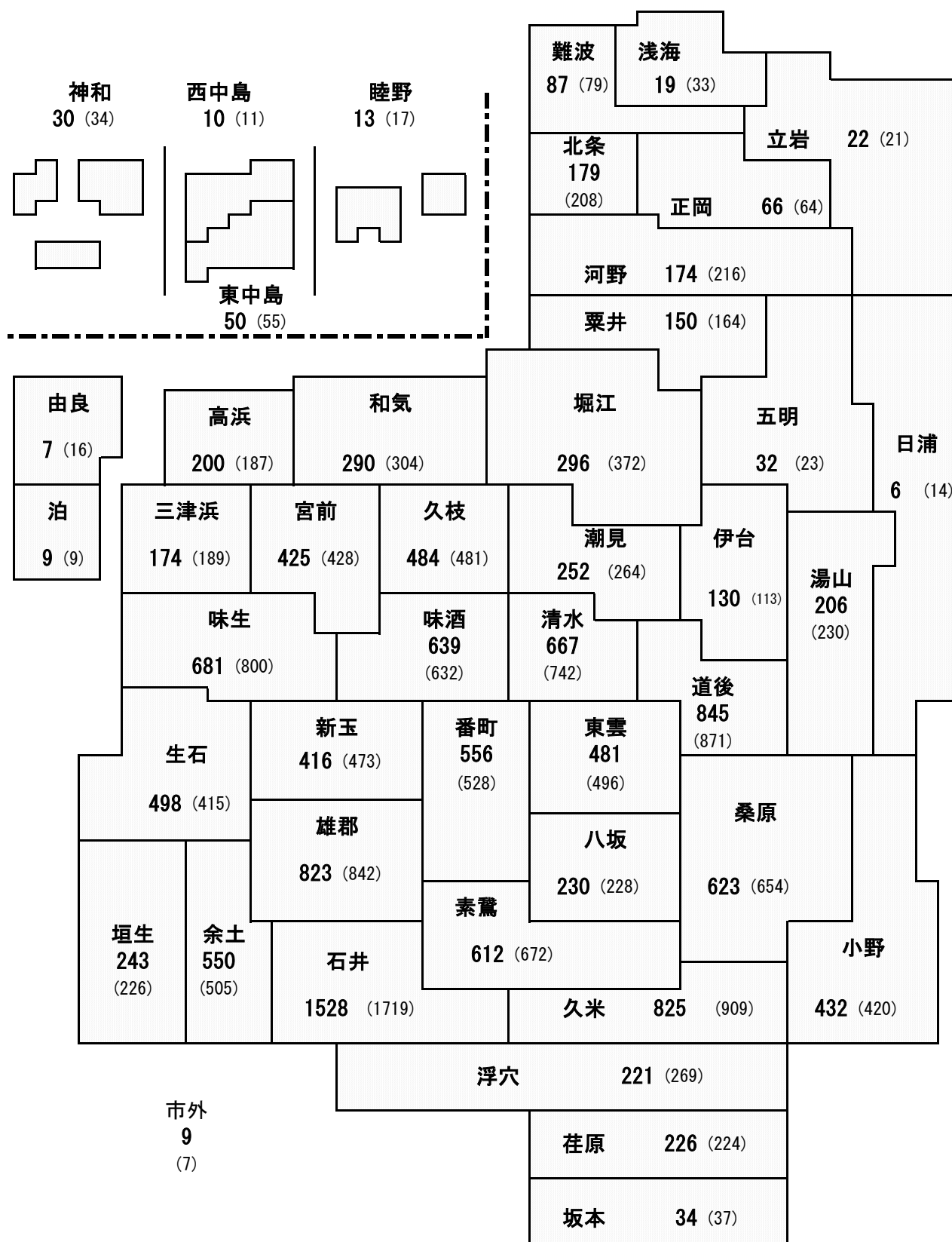
「●」とは、拡大された応急処置の項目

「◎」とは、救急救命士が行う特定行為の項目

5 地区別救急発生状況

出動件数 14,450件 (前年15,201)

() 内は前年同期の発生状況



救 助

第3 救助の概況

令和8年上半期（1～6月）の救助出動件数は126件（前年113件）、活動件数は89件（前年88件）で、前年と比べると出動件数は13件（11.5%）、活動件数は1件（1.1%）増えています。

また、救助人員は71人（前年78人）で、前年と比べると7人（9.0%）減っています。

1 救助出動等の状況

（▲は減少）

区 分		令和8年 A	令和7年 B	増減（A－B） C	増減率 $C/B \times 100$ (%)
出 動 件 数		126	113	13	11.5
活 動 件 数		89	88	1	1.1
救 助 人 員		71	78	▲ 7	▲ 9.0
	内 訳				
	男性	41	42	▲ 1	▲ 2.4
	女性	30	36	▲ 6	▲ 16.7
出 動 台 数		671	565	106	18.8
出 動 人 員		2,311	1,852	459	24.8
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	7	6	1	16.7
	交 通	23	26	▲ 3	▲ 11.5
	水 難	8	3	5	166.7
	自 然 災 害	0	1	▲ 1	▲ 100.0
	機 械	0	1	▲ 1	▲ 100.0
	建 物	65	46	19	41.3
	ガ ス ・ 酸 欠	2	1	1	100.0
	破 裂	0	0	0	—
	そ の 他	21	29	▲ 8	▲ 27.6

（注）火災の出動件数は、救助活動した件数を計上しています。

2 発生場所別の出動状況

発生場所別に出動の状況をみると屋内が77件（61.1％）、屋外は48件（38.1％）、その他が1件（0.8％）です。

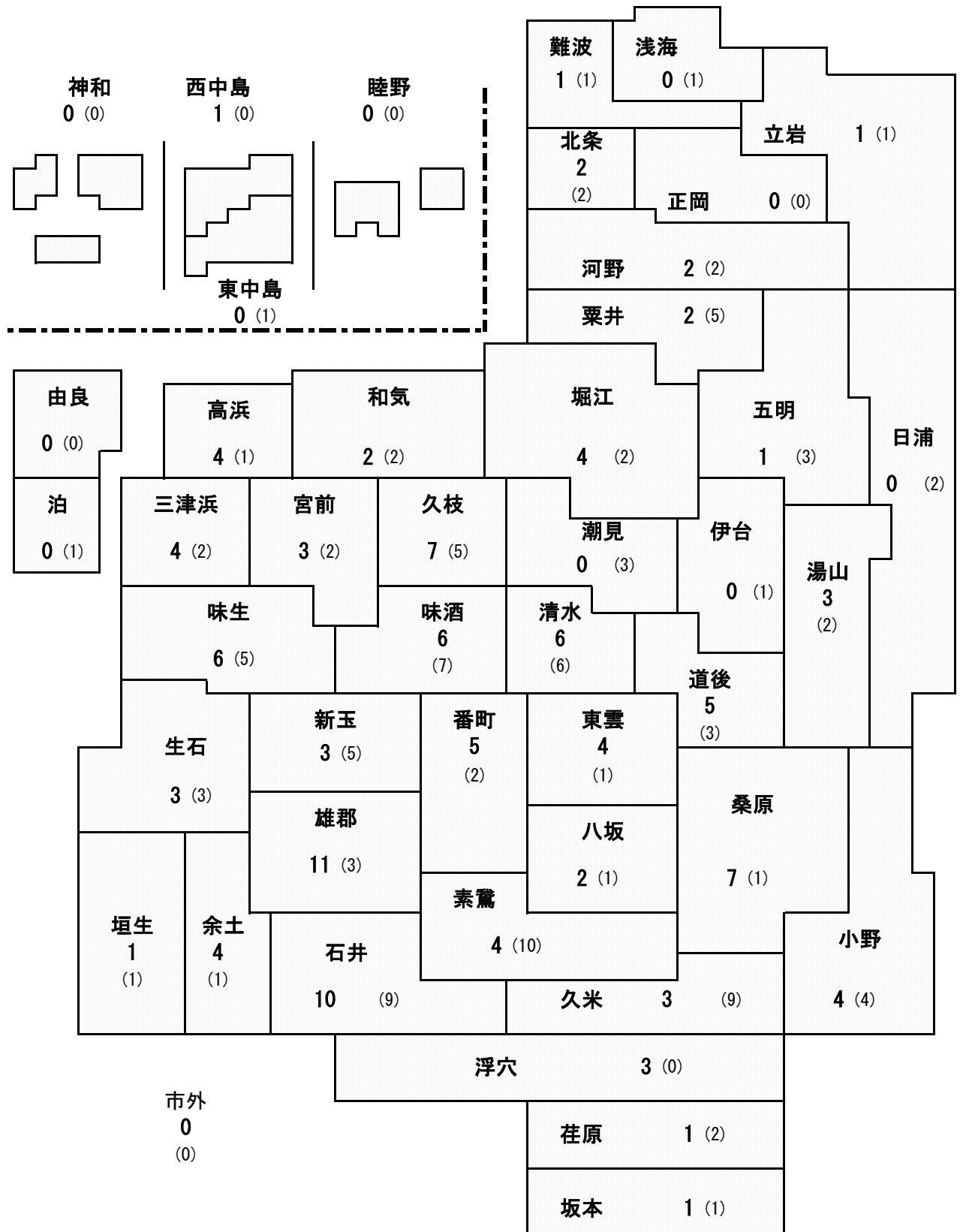
事故種別 発生場所別		火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他	合計
		建物									
屋 内		7					65	1		4	77
		3					34	1		2	40
	住 居	6					63	1		2	72
		3					33	1		1	38
	その他の屋内	1					2			2	5
							1			1	2
屋 外			22	8				1		17	48
			11	5				1		13	30
	高 速 道 路										0
											0
	その他の道路		15								15
			7								7
	内 水 面			3							3
				2							2
	外 水 面			5						1	6
				3						1	4
	山 岳									3	3
										3	3
	その他の屋外		7					1		13	21
			4					1		9	14
地 下											0
											0
そ の 他			1								1
			1								1
合 計		7	0	23	8	0	0	65	2	0	126
		3	0	12	5	0	0	34	2	0	71

(注) 救助人員数

3 地区別救助出動状況

出動件数 1 2 6 件 (前年 1 1 3 件)

() 内は前年同期の発生状況



【全国的に大規模な山火事が発生しています】

林野に立入る際は、次のことに注意してください。

- 強風時や乾燥時は、たき火や火入れをしないこと。
- 火気を使う場合は、周囲に可燃物がない場所で、消火準備を必ず行うこと。
- 火気を使用した後は、完全に消火すること。
- たばこのポイ捨てはしないこと。
- 火遊びはしないこと。また、させないこと。

令和8年 上半期 火災・救急・救助統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局救急課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9187

E-mail: sbkyukyu@city.matsuyama.ehime.jp

救助統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9220 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp